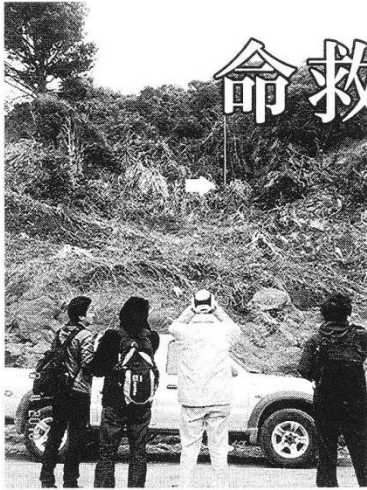
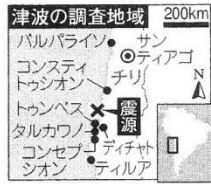




命救った津波の教訓



①20mの高さ(矢印)まで津波がさかのぼっていたことが分かった
②津波に洗われて壊された街並みには船が残されていた
=いずれもディチャットで(写真はすべて柴山教授提供)



津波の調査地域

200km
バルパライソ サンティアゴ
コンスティトゥション チリ
タルカワノ コンセプシオン
ディチャット
ディアル



安全サイドに立って大きめに警報を出すと、どうしてもオオカミ少年と思われてしまう。緊迫感のある警報はなかなか難しい。だが、まだまだ工夫する余地もあるようにも思える。

●記者のつぶやき

たお年寄りには犠牲になった人もいたが、地元の計測結果を使えば、多くの人は素早く逃げて無事だった。また、コンセプシオン近くの岬にある集落、波浪の観測網を生かしては七層を超す津波に襲われ、リアルタイムの津波警報も可能だと柴山人が高台に逃げて助か

1960年の経験生きる

津波の教訓が伝えられた(内山賢次氏)「ビッグゲル号航海記・武若准教授も」地元チリでは、過去の大地震で洗われ流してしま

「五十年前は大変だった」と当時の津波の様子を語る人もいた。武若准教授も「地元チリでは、過去の大地震で洗われ流してしま

チリ大地震を現地調査

■書物、学校で

チリでは、過去の大地震で洗われ流してしま



破壊された海岸沿いの集落トウネス

■大切な緊迫感

柴山教授は、昨年九月に発生した太平洋のサモア諸島地震での津波を例に「島の沖合にあるサンゴ礁に白波が立つのを見て住民が避難した。日本でも「いま津波が通過。おと何分到達」と情報

二月二十七日発生したチリでの大地震。日本にも一層程度の津波が到達したが、地元では十層近い大津波に襲われた。場所によっては二〇〇四年のインド洋大津波にも匹敵する規模だったが、津波による死者はけた違いに少なかった。先月にチリから帰国した早稲田大と筑波大の調査チームに現在の状況と、津波が来たときの様子、犠牲者が少なかった理由などを聞いた。

(永井理)

調査した地域は全体に数層の津波に襲われていたが、南に向かうほど津波が高くなる傾向があった。津波がさかのぼった最も高い地点を不ず最大遡上高は、コンセプシオンの南にあるディアル付近で二

のシミュレーションからも明らかになった。「規模や被害は、インド洋大津波のスリランカに似ている」と柴山教授は話す。スリランカでは津波だけで死者と行方不明者が三万人を超えたが、今回のチリでの地震と津波の犠牲者はそれよりも二けた少なかった。